

わたしの「ぬまのはな」をかいてみよう



オディロン・ルドン (1840~1916年)
《沼の花》

フランスの画家オディロン・ルドンが、木炭で紙に描いた作品です。

ルドンはこの作品を始め、いくつかの作品で、人間の顔の花を咲かせる奇妙な植物を描いています。

この作品では、この花が、飛んでいる鳥の大きさに比べて非常に巨大なサイズに描かれており、その存在の異様さに対する驚きが強調されています。

沼というのは、「湖よりも一般的に小さくて、泥深い池（類語国語辞典〔角川書店〕）で、植物が生えていたり、いろいろなものがたまったりしているところですが、何かに夢中になることを「～沼にはまる」と言う人もいます。

皆さんも想像力をふくらませ自分だけの沼に花を咲かせてみましょう。

ルドンの このえは どんなぬまに
さく どんなはなだと かんじまし
たか？

どんなぬま？

どんなはな？

あなたが かきたいのは どんなぬ
まにさく どんなはなですか？

どんなぬま？

どんなはな？

なまえ

(さい)